

日野郡に移住して 活躍中の方を紹介します

日野郡に移住して地域で活躍中の方を訪ね、こちらでの暮らしや今後の目標などについて話を伺いました。



矢吹 健太郎さん（日南町在住）
茨城県出身
農事組合法人HOSOYA勤務

知り合いに誘われてたまたま日南町に遊びに来たとき、70代後半のお爺さんが足を引きずりながらも農業をされているのを見て、何か自分にもできることがあるのではないか、と考える移住を決めました。若いというだけで地元の皆さんが全力で応援して下さいます。同郷の妻とは日南町で知り合って結婚し、子どもも2人生まれました。集落で子どもが誕生したのは25年ぶりとのことで、近所のおばあちゃんたちが自分の孫のように可愛がって下さいます。

不便に感じるのは、年1～2回の大雪と、小児科の休診日や緊急時には米子の病院まで1時間以上かけて行かなければならないことです。

米作りにやりがいを感じており、現在は30haくらいですが、今後どのくらいの田んぼで米作りを任されるのか、とても楽しみです。日南の米は元々良質米ですので、「海藻有機特別栽培米」などでさらに磨きを掛けていくのが目標です。これからは米の加工品の開発にも取り組んでいきたいと考えています。



高田 美樹さん（日野町在住）
日南町出身、鳥取県西部地震
展示交流センタースタッフ

大阪の大学を卒業後、東京や伯耆町での勤務を経て、結婚を機に日野町にJターンしました。今は、鳥取県西部地震展示交流センターのスタッフとして、展示の企画や視察受け入れなどを担当しています。

日野郡は自然の移り変わりで季節を感じられる、経済では計れない豊かさがあります。また、人の繋がりが密で、畑の野菜や川で釣った鮎を届けていただいたり、その代わりにできることはこちらもする、という生活です。私はこれを“他給自足”と呼んでいます。今の職場では、保育園に入れるまで“子連れ勤務”をさせていただくなど、地域で子育てをしていただいていると感じています。その反面、医療関係はたいへんです。産婦人科も小児科も、米子のかかりつけの病院まで1時間かけて通わないといけません。病児保育施設がないのも困ります。

今後の目標は、養護教諭になって日野郡の子どもたちのサポートをすることです。



古海 修祐さん（江府町在住）
福岡県出身、(株)奥大山ドリーム
代表取締役、道の駅「奥大山」副駅長

大学に在籍中、サークル活動として兵庫県西宮市内の限界集落でボランティアを行っていました。大学卒業後は大阪府で就職しましたが、地域おこし協力隊に興味を持ち募集のHPを見ていたときにたまたま目に留まったのが江府町でした。当初は地域から疎外されるのではと心配していましたが、優しく受け入れていただきました。江府町に来てよかったと思うことは、四季がはっきり感じられることと、お米が美味しいと初めて感じたことです。

昔と異なり今は、若者がチャンスを求めて都会から田舎に来る時代だと思います。僕は、社会貢献やボランティアということよりも、一般的には「金儲けにならない」と思われていることをビジネスに変えていくことに魅力を感じます。

現在、道の駅の副駅長となり、とてもやりがいを感じています。観光客が7割を占める道の駅ですが、地元の人にも集まっていただけるような仕掛けを作っていきたいと考えています。